

第4回奈良ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2019年7月11日(木) 19時～21時30分
- ◇会場 次世代教員養成センター2号館
- ◇参加者 樋口(平城西)、大西・圓山(飛鳥)、小谷・中澤哲(平郡北)、島(郡山西)、
高良(筒井)、河野(附属小)、新宮(平城)、今井(ソーシャルサイエンスラボ)、
後藤田(大阪成蹊大) 西口(東登美ヶ丘)
長谷川(教職大学院)、山之内・上田・東尾・畑下・坂元・仲村・西浦・藤原(学部生)
北村・中澤(奈良教育大) 計23名

1. 優良実践事例の検討

「先人の学びをつなぐ-杉原紙の取組-」多可町立杉原谷小学校 篠原 隆浩 氏

(1) 本実践で養うことができるESDの価値観

世代間の公正	文化を受け継ぐ、次の世代につないでいこうとしている 一度途絶えた杉原紙を復活させて後の世代に伝えようとしている 昔の人に学んだことをつないでいく
自然環境・生態系の保全	清流が守られている
人権・文化の尊重	地域の文化(多様性の尊重)、昔の異文化、

(2) 本実践で身に付けることができるESDの視点

相互性	異学年の交流 外国人となどとの交流をしている
連携性	杉原紙のセンター、地域人材との連携
責任性	自分たちで継承していく・伝統文化の継承者の一人としての自覚(当事者意識) 地域の人や世界への発信を自分事として捉えている 学んだことを下の学年へ

(3) 本実践で育てることができるESDの資質・能力

長期的思考力	木を育てるところからの取組
協働的問題解決力	異学年・グループでの活動
システムズシンキング	多様な教科の学びをつないでいる 発信内容を3つに絞っているところ
コミュニケーション力	学級内、異学年、外部の方との交流 発信の重視



(4) SDGsとの関連

- 11(まちづくり)、15(森林環境)、9(産業インフラ)、12(生産と消費) 6(水と衛生)
4(生涯学習)、

2. 日本ESD学会第3回近畿地方研究会での発表

「学習指導要領（平成29年告示）におけるESDの理念の検討」：中澤静男

問題意識：前文に「持続可能な社会の創り手の育成」が述べられているが、学習指導要領全体で、ESDの理念はどの程度、明示されているか。

調査方法と結果

①小学校学習指導要領の全教科の「学びに向かう力、人間性等」の目標に、ESDで育てる価値観の基礎は反映されているか→社会・外国語・外国語活動・特活には「人権・文化の尊重」に関わる内容が記載されている。理科には「生態系の保全」に関する内容が記載されている。他の教科には記述はない。

②特に記述の多い社会の全学年の目標を調査

→全ての学年の目標に持続可能な社会づくりに関する記述がある。

③「内容の取扱い」を調査

→「内容の取扱い」は2分されるが「子どもの学び方として「自分事として捉えること」が明記されているのは意外と少ない（4年生に多い）。

まとめ

社会の場合、目標に持続可能な社会づくりに関するものが示されているので、「内容の取扱い」に記述されていない場合は、授業者がESDの理念を反映した「内容の取扱い」を考案する必要がある。

第5学年食料生産単元を事例に「内容の取扱い」を提案する

この単元での学習内容は、生産者の工夫や努力、農業生産システムの理解が中心であるため、将来生産者になる子ども以外は、自分が何かをするという行動化には至りにくい。

消費活動を通して、農家を支援するという発想によって、自分で考え、行動を変容させることができる。

3. 授業構想案の検討



(1) 第3学年：郡山の金魚 島先生

導入：マンホールカード 子どももなんとなく目にしたことがあるだろう

調査：金魚に関する情報収集

副読本・金魚研究者・金魚マイスター

体験：金魚すくい体験

地域振興課：なぜ金魚すくい大会をはじめたのか

行動化：金魚すくい大会への参加・参画

地域外から来た人へのインタビューで、地域の価値を発見する。

(2) 第5学年：筒井の秘密・筒井順慶 高良先生

導入：順慶祭り（平成12年～）

子どもは筒井順慶に関心をもっているのだろうか？

筒井の人たちにとって、「順慶」はどういう存在なのか？

筒井城のフィールドワーク・地名に着目 現在とのつながり

筒井順慶顕彰会へのインタビュー調査

(3) 第5学年：秋篠川千本桜 樋口先生

桜を植えた目的・地域のほこりを作りたい

育てる会の人たちの営み。

一生懸命続けているが本当はしんどい・高齢化 後継者が必要

桜祭り・川遊び・掃除をしているのは誰か？

夏休みの宿題 子どもが秋篠川に行ってみようと思うような宿題 何本あるかな

コミュニティづくりの一環としてやっているのか？

文化財とつながなくてもいいのでは。

奈良町の人にとっての東大寺・興福寺 私たちにとっての秋篠川

高齢化で先細りになっていくという現実について考えさせる 持続不可能な現状

当事者意識を養うのがいいのでは。 この先続けていけるのだろうか？という課題で



(4) 第4学年 秋篠川はどのような川なのか調べよう・新宮先生

生物調査はしたが、自分事化できていなかった

平城小の児童は秋篠川に対する関心は少ない。「汚い川」という認識もある

河川課との生物指標調査・秋篠川の水質

奈良大学博物館：水質は改善している 川にたくさん草がある・生物多様性が増している

川上村へ行こう 「水の恵み」に着目させるには、秋篠川の水を用いた農家の方にインタビューした方がいいのでは。

生物多様性に焦点化してはどうか。 川上村でも生き物同士のつながりを考える学習が有効

地域の方と未来の秋篠川について、総合計画から考えよう。サワガニがいた頃の川にもどそう

生き物のエサや住处など、構造的にとらえる必要があるだろう

(5) 第6学年 町名・地域に働きかけられる人を目指して・大西先生

6年間の成果として地域に貢献する活動をしたい

辻子：十字状の小路

突抜：行き止まりだったところに突き抜けて新しい道ができた

新屋：新たな家が立ち並んだ

御門：寺の門があった

堂・院：元興寺や興福寺の建物の跡

難読地名 いわれや歴史がある

なぜ、この地域は「飛鳥」なのか？ 枕詞



次回は8月8日(木) 17時 ~



分析の方法

① ESDの価値観をどれに着うことかについて

- ・ 世代内の公正を大事に
- ・ 世代間の公正を ← ネタ →
- ・ 自然環境・生態系の保全を重視
- ・ 人権・文化を尊重

② ESDの視点と学習機会に

- 社会・自然：多様性、相互性、有限性
(つながり) (つながり)
(循環)
- 行動・意思：公平性、連帯性、責任性

③ ESDの資質・能力

単元の
流し方

- ・ クリカシキニク
- ・ システム・シンキング
- ・ 長期的思考力
- ・ コミュニケーション
- ・ 協働的問題解決力